

— ごあいさつ —

日本医療マネジメント学会 第14回 兵庫支部学術集会
会長 明石 章則（宝塚市病院事業管理者）

この度、2020年2月16日（日）に日本医療マネジメント学会第14回兵庫支部学術集会を神戸市ポートアイランドの神戸国際会議場にて開催させていただきます。メインテーマは「地域で必要とされる病院とは～地域包括ケアシステムを見据えた医療マネジメント～」としました。

近年、超高齢社会における地域完結型医療の提供が重要なテーマとなっています。そのため、病床の機能分化、医療介護の連携強化や在宅医療の推進が検討され、地域包括ケアシステムの構築が進みつつあります。また、それぞれの医療機関ではチーム医療のさらなる推進や、働き方改革に向けた業務改善も急務となっています。一方で、県内の病院においても良質で効率的な医療提供体制の確立に向けた再編統合の動きが活性化する中、地域の医療提供体制は大きな転換点を迎えようとしています。

今回の学会では、基調講演として、ねりま健育会病院病院長の酒向正春先生から「人間力を回復させる攻めりハ医療と街づくり」、教育講演として、兵庫県健康福祉部健康局長の味木和喜子先生より「兵庫県における地域医療構想の推進について」、また、特別講演として、有限会社ノトコード代表取締役の平林慶史先生より「多職種が学びあう組織と地域をつくる～学習する組織の考え方を活かして～」の3題の講演を行っていただきます。いずれも現状の課題解決につながる貴重な講演です。また、ランチョンセミナーも興味深い話題を提供いただきましたので、多くの有益な情報を得ていただけるものと思っております。

神戸国際会議場は、三宮からポートライナーで10分の利便性に加え、ゆったりとしたフロアでの意見交換の場として、皆様の連携強化に最適の環境を提供できます。また、学会後には三宮でのアフターコンベンションをお楽しみいただくことで、明日への活力につなげていただければ幸いです。

それでは、実りある学会となることを祈念して、巻頭のご挨拶とさせていただきます。